洪水浸水想定区域作成条件

本サイトの「洪水浸水想定区域」は、想定最大規模または計画規模の降雨により、浸水が想定される区域および水深を表示しています。
表示している「洪水浸水想定区域」には以下の２種類の図があります。

１．洪水浸水想定区域図：水防法の規定により指定された洪水浸水想定区域および浸水した場合に想定される水深等を表示した図面です。

洪水浸水想定区域図は、指定時点の河川の河道および洪水調節施設の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨（想定最大規模降雨）または洪水防御に関する計画の基本となる年超過確率の降雨（計画規模降雨）に伴う洪水により河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域、水深および継続時間をシミュレーションにより予測したものです。

なお、このシミュレーションの実施にあたっては、支川の氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨および内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

２．水害リスク図：法指定河川以外の県管理河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域および水深等を表示した図面です。

水害リスク図は、公表時点の河川の河道および洪水調節施設の整備状況を勘案して、計画規模の降雨 （計画規模降雨）により河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域および水深等をシミュレーションにより予測したものです。

なお、このシミュレーションの実施にあたっては、支川の氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨および内水による氾濫等を考慮していませんので、この水害リスク図に着色されていない区域においても浸水が発生する場合や想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

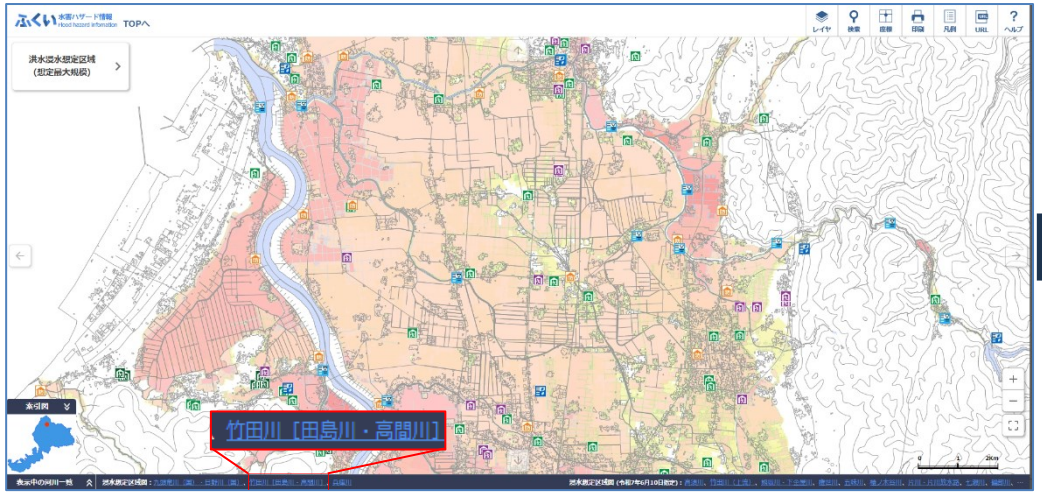
洪水浸水想定区域作成における基本事項等は、各河川の洪水浸水想定区域図および水害リスク図の PDF で確認できます。
≪洪水浸水想定区域作成における基本事項等を確認する方法は次ページを参照してください。≫

＝＝用語の説明＝＝

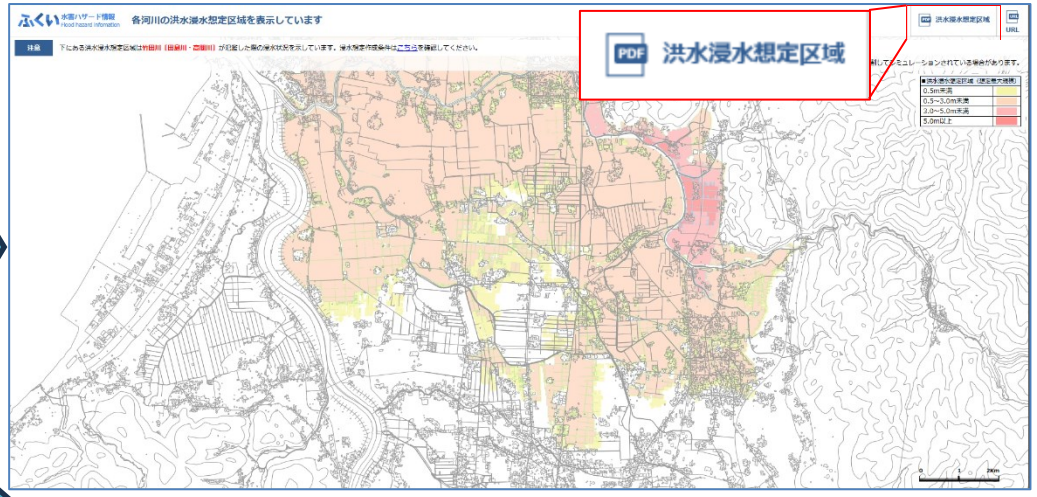
・洪水浸水想定区域（想定最大規模）：想定最大規模の降雨により、浸水が想定される区域のことです。
・洪水浸水想定区域（計画規模）　　：計画規模の降雨により、浸水が想定される区域のことです。
・想定最大規模降雨　　：概ね１,０００年に１度以上の確率（年超過確率 1/1,000）で発生する降雨のことです。
・計画規模降雨　　：その河川を将来的に氾濫させないように整備する際に目標とする大雨のことです。河川の流域の大きさや、氾濫が想定される範囲の資産状況等を考慮して定めたもので、河川ごとに個別に定めています。
・その他の用語は「用語の説明」を参照してください。

洪水浸水想定区域作成における基本事項等を確認する方法

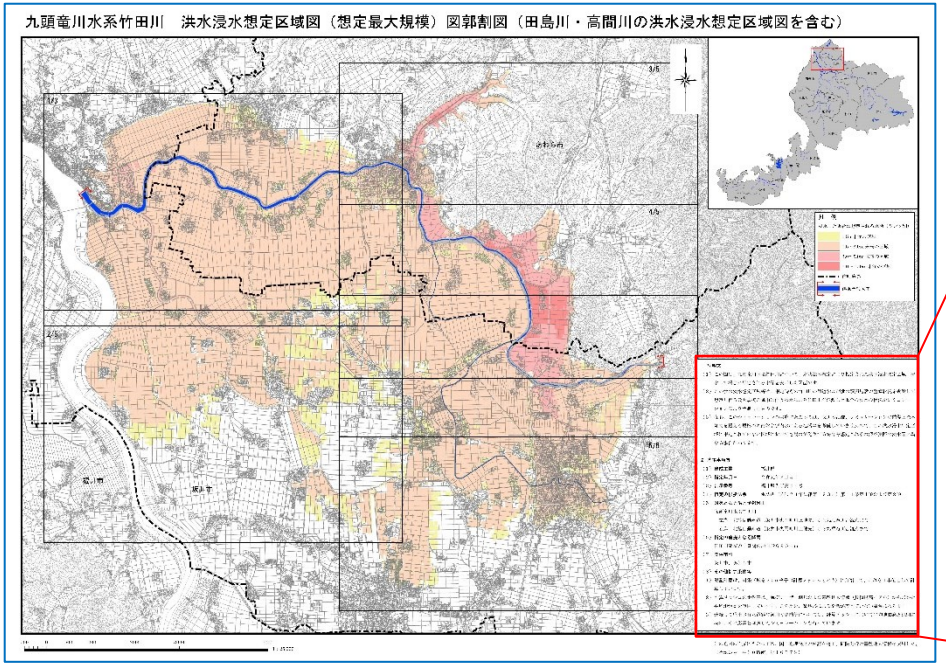
① 「表示中の河川一覧」から浸水想定区域作成における基本事項等を確認したい河川をクリック

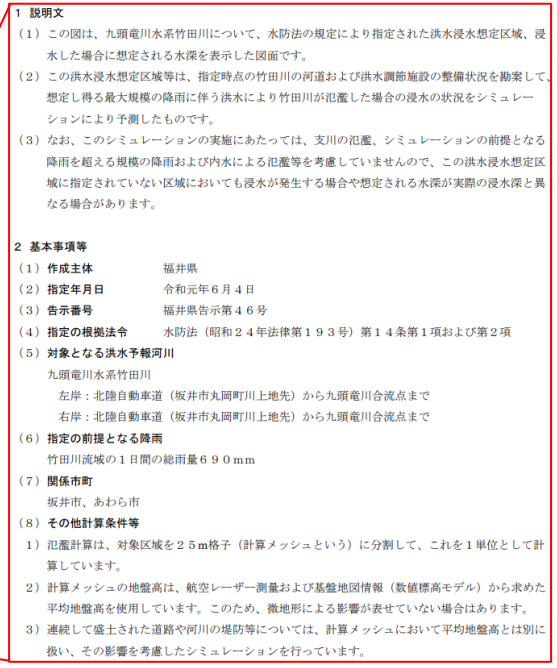


② 「洪水浸水想定区域」をクリック確認したい河川をクリック



③ 洪水浸水想定区域作成における基本事項等が記載された PDF へリンク





1 説明文

（1）この図は、九頭竜川水系竹田川について、水防法の規定により指定された洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。

（2）この洪水浸水想定区域等は、指定時点の竹田川の河道および洪水調節施設の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により竹田川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。

（3）なお、このシミュレーションの実施にあたっては、支川の氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨および内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

2 基本事項等

（1）作成主体　福井県

（2）指定年月日　令和元年６月４日

（3）告示番号　福井県告示第４６号

（4）指定の根拠法令　水防法（昭和２４年法律第１９３号）第１４条第１項および第２項

（5）対象となる洪水予報河川

九頭竜川水系竹田川

左岸：北陸自動車道（坂井市丸岡町川上地先）から九頭竜川合流点まで

右岸：北陸自動車道（坂井市丸岡町川上地先）から九頭竜川合流点まで

（6）指定の前提となる降雨

竹田川流域の１日間の総雨量６９０mm

（7）関係市町

坂井市、あわら市

（8）その他計算条件等

1）氾濫計算は、対象区域を２５m格子（計算メッシュという）に分割して、これを１単位として計算しています。

2）計算メッシュの地盤高は、航空レーザー測量および基盤地図情報（数値標高モデル）から求めた平均地盤高を使用しています。このため、微地形による影響が表せていない場合はあります。

3）連続して盛土された道路や河川の堤防等については、計算メッシュにおいて平均地盤高とは別に扱い、その影響を考慮したシミュレーションを行っています。

河川ごとの
シミュレーション条件の
詳細な説明等